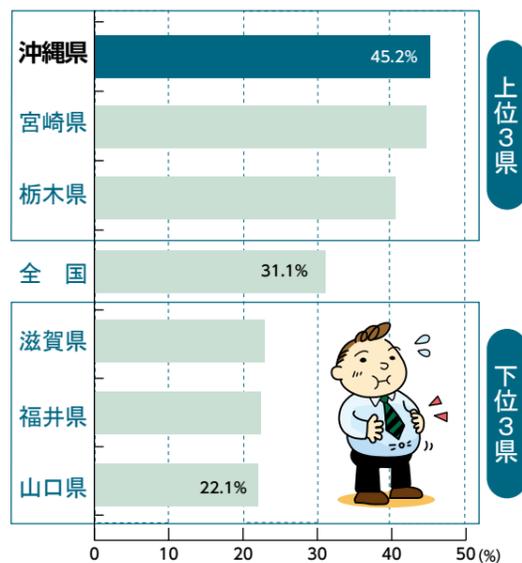


【肥満者の割合】

(2010年度)



上位3県

下位3県

45.2%

正月・新年会など、なにかと食する機会の多い時期を迎えた。ただし、肥満者の多い沖縄では、食べ過ぎに注意が必要だ。

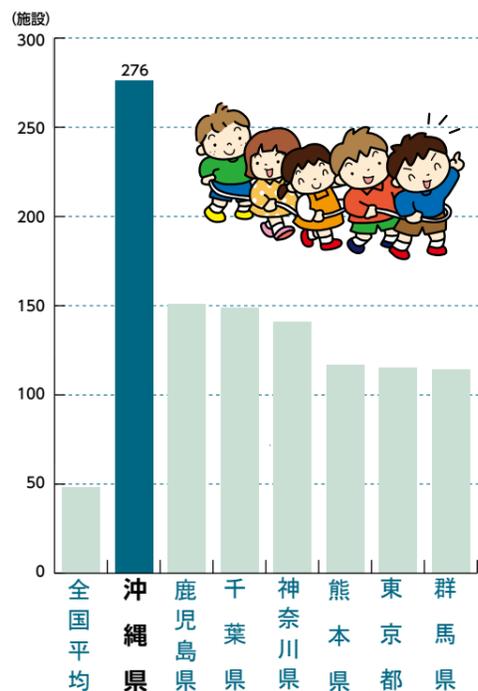
厚生労働省「2010年度国民健康・栄養調査報告」によると、沖縄県の男性(20～69歳)の肥満者の割合は45.2%と全国1位。約2人に1人の割合で肥満となっている。肥満とは、一般社団法人日本肥満学会の判定基準によるBMI25以上を指す。BMIとは、(体重÷身長)÷身長で算出される体重指標である。沖縄の男性の平均寿命は現在全国25位。急速に食事が欧米化、高脂肪食化したことにより、男性はもはや長寿ではないといわれる。女性も、死亡率が高まっており、長寿日本一の座は危うい状況だ。肥満だと生活習慣病のリスクも高まる。

人ごとではないと思った方、年始だけでも、食べる量を抑えてはどうだろうか。

(海邦総研/湧川竜也)

【国立民営の放課後児童クラブ数】

(2012年)



276 施設

「公立公営」、「公立民営」、「国立民営」といった聞き慣れない言葉がある。小学生のお子さんを持つ親なら、学童保育のキーワードと一緒に一度は聞いたことがあるかもしれないが、これらは放課後児童クラブ(学童保育)が公的か民間かどうかの運営形態を指す言葉だ。

厚生労働省の「放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の実施状況(2012年5月1日現在)」によると、沖縄県の「国立民営」の放課後児童クラブ数は276施設で全国一となっている。

子供たちの「育ちの場」を確保するために、民間企業の努力により増えてきた背景がある一方で、利用者によっては、施設が自宅から遠く、サービス面でも、ヒト・モノ・カネに課題も生じている。

こうした現状に対応すべく、公的施設の利活用や計画的な施設設置、質の改善、利用者負担の軽減に向けた取り組みが急がれる。

(海邦総研/比嘉明彦)

【人口10万人あたりの美術館の数】

(2011年)

順位	都道府県	館/10万人
1位	山梨県	1.63
2位	長野県	1.58
3位	石川県	1.28
4位	島根県	1.25
5位	富山県	1.10
・	・	・
・	・	・
・	・	・
47位	沖縄県	0.07
	全国平均	0.35

0.07

博物館法に基づく美術博物館に指定された美術館は、県内に1つしかない。これは人口あたりでも館数でも、全国で最も少ない。

人口10万人あたりの美術博物館数の1位は山梨県、2位は長野県で、東京近郊の観光地になった。3位以下には、石川県や島根県など日本海側で観光に力を入れている県が並んだ。

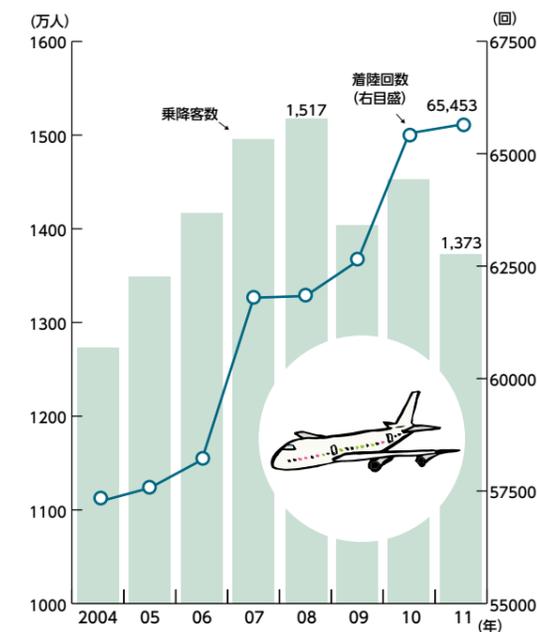
沖縄には、独特の自然風土や文化を背景に生み出された、価値ある美術作品があるのではないだろうか?そうした芸術に触れる機会は、県民にとって大きな意義があるだろう。一方、観光客の多くは、各地への旅行で美術館を訪れた経験がある。このため、沖縄らしいコレクションを備えた美術館へのニーズもあるはずだ。

沖縄の美術界をさらに発展させ、観光にも寄与する美術館。そして県民が誇りに思えるような美術館が、もっと増えても良いのではないだろうか。

(海邦総研/鮫島智行)

【那覇空港への着陸回数】

(2011年)



65,453 回

瀬長島での飛行機ウォッチング。遠くに見えていた機体が近づいてくると、その大きさに気づかされる。見とれているうちに、次の飛行機が向かってきて、着陸の間隔の短さにも驚かされる。国土交通省によると、2011年の那覇空港への着陸回数は6万5,453回で年々増加傾向にある。一方、那覇空港の乗降客数は2008年の1,517万人をピークに減少気味。着陸回数が増えれば、乗降客数も増えそうだが、実は近年は反比例した動きとなっている。

旅客機の小型化や搭乗率の低下も要因として考えられるが、貨物機や自衛隊機、ヘリコプターの着陸回数も含まれているため、一概にはいえないところもある。

離陸も含めると、離発着回数は年間約13万回。1日あたり約360回も那覇空港は利用されている。安全、経済発展のためにも早期の機能充実に期待したい。(海邦総研/瀬川孫秀)